

コアラの愛称が決定 イングランドの丘

3月に西オーストラリア州から友好提携30周年記念として贈られた4頭のコアラ。イングランドの丘で7月10日、コアラの愛称を発表するセレモニーが催されました。

市では3月6日～4月30日の期間、コアラの愛称を募集し1645通の応募がありました。入賞の8作品から井戸敏三知事と中田市長が選考し、愛称は「ゆめ」「みらい」「のぞみ」「ゆうぎ」に決定しました。この愛称は浅井博子さん（松帆）の考えた案。浅井さんは「コアラがやってきたのは東日本大震災の発生に近い日でした。被災地を応援する意味も込めて、みんなで力を合わせて夢や希望を持ち、未来へ向かって頑張れる



▲コアラのパネルを持つ(左から)藤原道生県民局長、中田市長、浅井博子さん



▲愛称が決定したコアラ4頭

ような愛称を考えました」と話していました。中田市長は「これからもイングランドの丘はたくさんの人たちに愛される施設になってほしい」と話しました。

この日は、市出身のグラフィックデザイナー市橋友子さんが描いた4頭のコアラのイラストや、パティスリートミナガの富永真朗さんが発案したコアラケーキを発表。今後、同施設のPRに活用していく予定です。



▲コアラの顔に見立ててシュークリームとクッキーで作ったお菓子

盛況！淡路島牛乳フェア

販売促進につなげる！

淡路島牛乳と乳製品をPRして販売促進につなげようと、淡路島酪農をはじめ直販所連絡協議会や市が主催して、7月16日、イングランドの丘で「淡路島牛乳フェア」を開催しました。

地元酪農家が搾った牛乳を使った乳製品の販売や試食・試飲のコーナーを設けて、観光客らに新鮮でおいしい牛乳や乳製品の魅力を盛大にアピールしました。また、牛乳や牛に関するクイズやイベント、工作の体験コーナーでは、訪れた子どもたちや家族連れの人たちが大いに楽しみました。



▲淡路島牛乳や乳製品などを販売



▲牛乳や牛に関する〇×クイズも盛り上がりしました

▲怪獣の形に作った手づくりの「牛乳石けん」

▲コクがあっておいしい！と大評判でした。牛乳の試飲や乳製品の試食

▲牛乳パックで帽子作り

▲栄養満点の牛乳は子どもにも大人気

▲紙牛の工作

▲乳製品の詰め放題

ぬし島の鰻を振舞う



▲手馴れた手つきで次々と鰻を焼く沼島漁協の漁師

イングランドの丘で7月17日、沼島近海で獲れる鰻をPRするイベント「ぬしまフェア」が開催されました。同フェアは今年で5回目。沼島漁業集落が主催し、2千匹の鰻が販売されたり焼き魚や刺身として振舞われました。



▲鰻の振舞いを堪能する観光客

沼島近海は潮流の変化に富んで、鯛やハマなど様々な魚が生息する豊かな漁場を持ちます。鰻は沼島周辺の魚礁に棲み付き、栄養たっぷりに育ち、他の回避してきた鰻と比べて脂の乗りが良く、地元漁師は「ぬしま鰻」と呼んでいます。背中が黄色みがかっているのが特徴で、身に脂が乗っており、また一本釣りさ



▲鰻の刺身やたたき

がつかず、高級魚として関東を中心として料亭で扱われています。家族で訪れた村本美幸さん（広田）は「生臭さが全くなく、いくらでも食べられます。脂が乗っていておいしいです」と満足そうな表情で話していました。

ふれあい市長室

地域の活性化は特産品づくりと売り出し方

南あわじ市長 中田勝久

市には全国に誇れる特産品やふるさと資源が沢山あります。玉葱やレタスなどの野菜、乳製品や淡路牛、びわやみかん、ハマや桜鯛、3年とらふぐやわかめなどの海産物、日本三大瓦のひとつ淡路いぶし瓦、日本三大水仙郷の一つ黒岩水仙郷、淡路人形浄瑠璃や国生み伝説など、他地域から羨ましがられるほど豊かな地域であります。その底力は、農家や漁師、職人や地域の方々、団体組織が懸命に働き、守り育てていることが「ふるさと」を支えています。

しかし、価格の低迷や高齢化、後継者不足に悩み、一生懸命汗流したことが必ずしも報われているとは言えません。言い換えると、マーケティングや異業種間の連携にもっと力を注ぐべきであると感じております。例えば、京都で夏の高級魚として古くから食されている沼島のハマについて、何故有名でおいしいのか沼島のハマ名人にお話を聞きました。「沼島の太平洋側の海底は泥地でできてお



▲地元で収穫された新鮮野菜

りハマが寝床としていたためお腹の皮が柔らかい。また、鳴門海峡の激しい海流の中で育つため、身が締まっておいしいのです。」京都の方からは、「何故その物語を前面に出して売り出さないのですか。消費者は賢くない物語りや本物を探している。その話そのものが価値を高め、食べる人を増やすのですよ。」と言われました。

また、約一千万ケースを出荷している主要野菜の価格が百円上ると10億円が市に入りま

す。簡単ではありませんが、所得の確保が後継者の確保にも繋がります。一方、都市生活者は、安心・安全はもちろん、癒しや正直、まじめ、ぬくもりという目に見えないものを求め、産地の雰囲気や生産者の実直さを特産品の評価に重なるようになり

ました。私は、各方面からの強いご意見を参考に、ふるさとぬくもりを付加し紹介できる、「まるごと淡路島食の拠点施設」を整備したいと考えております。あ